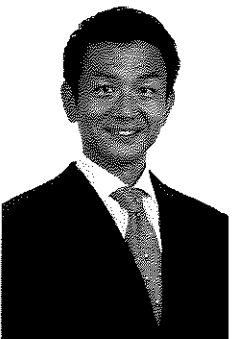


# 年頭の「挨拶

衆議院議員

小田原きよし



あけましておめでとうございませう。森勉理事長を始め借行社の先輩方には初当選の前からお支え戴き、改めて感謝申し上げます。自衛隊官舎で育った政権与党の国会議員としての自覚を持って今年も全力で働いて参ります。

御代替りの年を迎えました。それに合わせるかの様に、一月から始まる通常国会では憲法改正議論が本格化するものと思われまふ。我々自民党は自主憲法を制定する事を党是としています。から、戦後74年を経て漸くその本意を遂げようとしている言えましよう。自衛官の家族としても、国会議員としても大いに期待しております。

しかしながら、肝心の憲法改正案は党内での侃侃諤諤の議論を経てもなお苦悩に満ちた道を歩んでいます。本来、日本人が読んでも不自然で意味がわからない文章を一から書き直し、格調のある最高法規にするべきです。それを具現化したものが野党であった平成二十四年にまとめた自民党日本国憲法改正草案です。十分な議論を踏まえてまとめただけあって良い出来です。9条2項は現行の文言を削除し新たに国防軍と軍法を定めています。独立国と

して当然のしつらえでありましよう。ところがいざ衆参両院で3分の2の賛成を得る事が現実味を帯びた今、皮肉にもこの草案では国民投票で過半数を得られないのではないかという悩みが出て参ります。

国民投票で改正案が否決されると、報道は「改正案が否決された」と言わず「国民は現行憲法を選んだ」と報じる恐れがあります。私たちが憲法を改正するべきだとするもう一つの論拠、「現行憲法は国民の手の届かないところで押し付けられた」という主張が通らなくなる懸念があります。これは悪夢であります。

そこで加憲案、「9条は変わりません。国民の支持が高い自衛隊を明記するだけです」という戦略に出たように思えます。悩みは良くわかりますが本当に自衛隊明記の加憲でいいのでしょうか？ 自民党内での激しい議論の中でも、「2項を残したまま自衛隊と書く」と、「戦力」でもなく「陸海空その他の軍隊」でもない自衛隊を憲法で固定化してしまふ。残すなら自衛権と書くべきだ」という意見が多く出ました。ごもつともと思います。

国民投票に耐えうる改正案を作れるのか、自衛隊と自衛官はまっとうな独立国の軍隊として手枷足枷のない任務遂行が出来るようになるのか。憲法改正は国民議論として熟しているのか、熟していなくてもやるべき改正案発議はやり抜くのか、国民議論が熟すまで待つのか、いつまで待てば熟すのか。

これからも改正案の議論は続くでしょう。国民全体での議論に発展させ、納得のいく改正を成し遂げる決意です。